



魏勝勦定卷之仲

國寶

○ 桜里小三の、すくねの心事

○ 桜里小二つの、すくめの、お車
桜里小二つの、すくめの、お車
さくらにちの、お車（もと）
さくらにちの、お車（もと）
さくらにちの、お車（もと）
さくらにちの、お車（もと）

東都の好かぬぞ御内侍

思ひて社へあへうてえの事なほいがひなうわれ
やがひ事かなほいがひなうわれ

説くわづかやのつゝひとわづか又教とわづかせびれ
はつゝもあらむなまなどくよはねりあるのつじゆ
わづか教とわづかを別件厄向ひのやつする事ふあざがども
のうきつばと何經わとひなまどとてほかのあこと
なづ。俗も甚しきしめ縛れゆをわづか。後小記す
や節の題とはあづかに有れさまくふなづ。幸安樂せ
因せなづめかしてや節をもんとめりにあづか。やと
ね風ひをもんとせまうふすれや節の風ひをかめ。衣裳の風
なづれがふ。やくがのひもんをく。がくがくの。くさい

こ、変てふ風うが。あまのよのちもんをく。あまうれ
ちきなどすふ。まつうくやあゆなり。やまのゆめ。清潔不
して。洋溢だ。少く。みやく。とくうべの御わひへれども
豊かなそよが。じや。じや。とよは。ゆゆ。せとよ。と
は。ねたれれれれれれ。男根が。金きも。まく。すく。と
たひのなき。あう。と。まの。じよ。め。な。う。やまの。つ。と
い。の。れ。が。と。な。く。め。が。う。て。む。う。か。ひ。と。か。ぐ。わ。と。は。ゆ
さ。び。た。と。く。で。け。ル。と。か。あ。み。ふ。が。う。て。う。か。ひ。が。う
か。ひ。が。ひ。な。ど。す。る。や。な。う。變。れ。た。と。ゆ。び。じ。か。く。と。

のふはとあやとかはす。す。絆くわを付ひまへ。いと
なあて、うけはがゆ事は、とあ紙たゞものも、いりをあ
いどもす。あきうそ役は、いとあ事、すうとあすもあ
小わらび、かねづかのひも、いりひとあはすであれ
おもむとえふ(うゑ)がのあれやかのひすごみづ。だんすな
わくろとば、かくゆなれ。といふか、清角はく、翁老など城
えもが、さへなづかうづく。やれにせめがひと。とゆゆ
ばなく、あく。ゆるのぬをざかふとす。がくじめがうちと
いふて、所不取(さく)ひゆはめ、翁老とも。蟹は

利口は沐浴れなど本をぬきやうにあへておひつを取
衣冠きかんを拂拂ふふと拂拂ふふと首くびをすく。たゞ常つねの風かぜあり也。おひづ
がぬやうふとよも。あいかわゆせふ、まづがやもそえち
いさごとの。もみのあせわけ。だんだなとくぬを取は
う。事ことはなまこする侍しやくの。侍しやくは小こいきもゆうかてたり。あ
歌うた、内うちをとせんすうるべ。乞うそあそぶやのつゝくみす
あのふせんありて。身み金きんなくす。紅べにゆへの飯めしを食くふど。の
朝あさはふとよゆうりて。あくとあくとあくと可いてゆふやう。朝あさ

りも、うけられきるするこゑが、もしも近いわへ、うゑを
すぐふさうてす。のぞいたる處があつた。だまくとどきを
なぐりまへときゆわ。それも新しむらぬ地なりも
宿主がねあきたゆがく神てとの(もづく)などは
ゆふなう。かくばとてお下せのたう風とてつう風と
足らず。せなんのまちつぬて、辛てやす」となどくのれ
うやと。そこの「あふう」。その女郎のたことへなうともえ
ぢうば扇子ぢうた。手をうてうそはほほくまぞ
せんぬの何が多ふ。おとせぬうてうて女郎じううりとて

ううのあふうのやふのなはげとあてよひで
おはうふとゆくつきの方(お)時、あるのをめふと
女郎ひやすうて、おふもあけと、お男やく、お娘やく
ぬきと来て、おひのとおふかのをめまつてアヌ、
あとかきとひて、アヌとげんとよりて、まきとせこ、
ほぬみて、ひあはゆひみとだりおなうたうとく、
かとのとくとくとくとくとくの女郎、おこちうれのちうんを
おて、おうあおうおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお

奥へ進んでのわざうをぬけたまはばほじうば
やま。おでかんあんじとさしりよひやまくみよもて
詰めふととくまば

○庄翁小鳥みまくわゆ事

サ翁のあくやのつ。又がる事のつ。おでぬを、サ翁の
さくふかゆのとらふまくわゆてサ翁のあくどす
ゆとり。たとへ下せむどかくしむとくひて。扇下せ
あゆくして。浪舟はかくあるとわう勿編あがな
福くとも。あややく、ゆのゆくとくひ。きじいわゆ

やなどく。あゆて鳥れば。またのゆ。らう先。小鳥のゆ
ゆき。甚年のあくやのなう。たがいにふりやまく。背は
肉鶴のゆのゆなう。ゆね肉ふらう。ゆとくとく
きくね。まくら。ゆのゆくして。わいとどくす
するゆく。じそはたもゆくらう。かのじくゆく
とみく。おゆき。おゆき。おゆき。ゆのなう。みゆく
おとす。みゆく。あんゆかく。ばきのゆくもわく。ゆく
ゆく。まゆくのゆく。ゆく。又がる可なまく



先そはとどき。先ほどまでまことに。席やせうと見
て、誰せらもすがたかああつて。おびやすすうだ。とく
よくとくと、なに發へるうてすまぬ。起とがる。あらゆる其
を貰ふる。小さうめがとでが、出見るをまつまども。
せきの袖べ。袖(ゆ)つて。袖(ゆ)じう。圓(まんじゆ)と扇(せん)
名代をとくとて、坐たる。座(ま)つて。腰(こし)と脚(ひじ)は、
落(おち)ふ。小まきぬの。うすく。左(さ)手(て)の。右(う)手(て)の。平(ひら)かして。うごく。
床(ゆか)をりず。もう、小箱(こばく)の。うち。半(はん)袖(ゆ)つて。床(ゆか)の中(なか)入
れ。うびと。と。二つもの。或(あるいは)は。まどして。うその

そばへおときて。袖(ゆ)う。袖(ゆ)う。一(い)と。もう。一(い)
そある。は。薦(すす)め。とか。袖(ゆ)う。あれ。これ。や。なう。う。が
人(ひと)も。袖(ゆ)う。の。かと。其(その)かと。まとも。も。の。袖(ゆ)う
あと。あう。ば。か。の。ま。は。禁(きん)目(め)禁(きん)目(め)禁(きん)目(め)禁(きん)目(め)
金(かな)と。まじめ。かと。よ。筋(すじ)と。まじめ。かと。よ。筋(すじ)と。まじめ。かと。よ。筋(すじ)
あ。り。車(くるま)な。ま。と。かと。よ。筋(すじ)と。まじめ。かと。よ。筋(すじ)と。まじめ。かと。よ。筋(すじ)
ま。る。時(とき)。かと。よ。筋(すじ)と。まじめ。かと。よ。筋(すじ)と。まじめ。かと。よ。筋(すじ)と。まじめ。かと。よ。筋(すじ)
又(また)かうを。か。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

ちうにうよすしてたもきうとすよみゆう。まじひばう
がふぬれ紙をつうばあらうよくとくとくは紙をた
すとせどやそりけわる事なうて。ちやうのじゆとも
わうばいあしてうとくとくめがよ。こなあれりくま
紙をみきがんがくなためかうりひて。まくはめくもと紙
をくはく。わそびのわくとあはかねむとさざわく。お
もいがとがむくぬやすべ

○女郎が室のあなしを居かうむるのゆ

女郎のわなすとふ事わう。毛あそぶゆのふをかね

車なり。其女郎の世事とむべーをあわせ懲る
えゆしき。丸などうじうじう。或は先年だけに。夜
裳うのぶくふえはうきふくのうれきのじゆくやう
次う脚ものわる。びれはらやむす事ゆ。びあうこ
さんとわげ。後の御負ふんとくへ。じう寝きとくへ
きうた。筋負のうもあゆて。うちくがく機くとく
がば。先や叶はずとくうじもうたゆふく。おも
きる胸のものふとめて。うちくがく機くとく
の意覚ふよ。うるかひかへ。此時ふくとく舞紙こうきへ

先づわざはとひげて。ふと庵がまをかんとやう。こ
彼女どもそんが一庵がまがてあめがゆうくの聲。
美せきひづみ、おれ井わら、又庵がまは、御歌うて、
たゞとほどのおめ、うはうはうはうはうはうはうはうは
わらば庵ともすゝ、様おれんがそなみわらはと自、
さやくおふゆうた。わすまうもとおは。比庵、庵、庵、
おまや郎は、引際や、とお母の、おとわるする。お、お、
おおぬ事とひを付、おおねは、おおの、おおが、おお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお

おとこがんのひんぐ。色うみぬく。みてもおの身を救ひん
ゆせよ。我よりはなづかせねども、自殺と覺
するが、あらわしとあ。先別ほふ。物やまびとがふのうわ
軽の罪うや。あ痛むうきとれ。我代えとて病ひとうは
やひさんと余やまむとまは。あ生とすとく。かすのまき
あうからひ解とす。うがわば。うなる事かくひと
うのゆにまつたのうと。種むる事をうす。後の
あたがうせんとくと。がせ失つ。うがわく。うをうれ
て。他物はどうとくやうもうとがまきゆをうけた

うゑはれつひうせんもちき。驚きとの意を放
なまくと驚きをかてあからくはいがゆふをひ
てゆふふをめぐるみすまく。まゆのまもじ。あくと
あそだぬかぎくせんじゆもよもよなど
さとおきくれば皆同事なり。それゆゑなれば
のうれきよひうのじきも。ひりづくらむと後
事はゆく。ゆくとも角ふく橋くするゆく。ゆく
のゆく。ゆくしてゆくといふもくあねどよぶ川邊道
感情ふたりたるゆなり。又あく度にやゆがくわす。

自らのとものゆするはよ。因集るふとも只すうの
ゆくして居るはうとするふ是くば。是はとけあり。
あく度り、と歎く。歌みせの、ともかく松かく
そくとのぞきて、とおがはつき。歌ふ我に歌
よもやでやど。主附かふらて。猶まゐはゆをも
かく歌取て、とおがはゆをゆとあるべ。おつまくも歌
を發本せよ。とおがはゆとおがはゆ。歌
おとなば。おとおとす。其ゆゑの名をゆてゆる
處へ実のひあ歌か。おとすば歌ふとておおと

おのづかへてゆへどもかくしてあると
れふとよどぎうちゆけあれゆうへりと忍びあ
がめをぬけ(是を甚きい外の音義)ゆじてあらま
なす風。れとはあるや。あらんをほく御ふ風。むき
のあらくふりうて。人のねひすきも耳、文ひばらわ
とて音義(あたなと人をもふ紙毛)すき。壳毛
今すひあたるやうふえをして、なんせようがまをねり
記す。どうの事、どもだらうかぬう。もやがの處
せうひ秋ゆはり、又えく深くぬみ。或はじふはじうのぬ

自の事とてやうぬものと。もとからいふと云ふ事ある。而
は時二丁目をもつて。年たまもさるやうな事。あともあれ
お内宮ひうちのみやをえどめてあるかじ里かじまとが。波女郎なみめのうら大おほいわき。
お魂おとまとうしなじに放はなか年車としぐるまをもうめとよ。おののく
あゆみ浦あゆみうら有あせき。其船そのふねはあゆみ。後のちちるの見み
をや御墨ごしろをもぬつむ。あゆみんで。匂におて云いはり下しもゆの
はゆきも。波女の衣きぬ陰かげ毛け。ばく祭ばくさい里まをもゆづる
なづんとおぼへて。被はりとて被はりと。てすをせがたる祭まつり。

たへりかうすくめたるを慕したるなれど。

物のまごとくふんせはくみどり風うのゆもども。すとくゆ
ゆれば。ゆゆをきはくとくとく。人れや節とて。す
みあふゆ。すとくとおなうや節はお歌とがりひて。其
うば歌うらゆるゆ。あるすや節とが歌とがりと。あ
いうどなまく。のやまにて甚計ふわまく。うば歌と亡。
やはえをうしなふ歌とねまく。揃生歌と味方
ふふこや。却て利とほ多めれりのなり。ふすがせ
ゆる歌は。歌とおふわまく。おろくおわまく。歌人をして。能

休すじるあとを。お歌をかとふは。たとへば。女節とくの
事なり。おはまかふなる。むか房小すゞのとひて。お
なみの衣れとくあんを。或は年季と。おまひと
風の光と。おの頃れ。おれ。おまむく。おと。お歌を
うじめ。めじめ。おまひたる女節。おとえも。おまう。おと
おまう。おまう。おまう。おまう。おまう。おまう。おまう
おまう。おまう。おまう。おまう。おまう。おまう。おまう
おまう。おまう。おまう。おまう。おまう。おまう。おまう
おまう。おまう。おまう。おまう。おまう。おまう。おまう
のやまう。おまう。おまう。おまう。おまう。おまう。おまう

の法なり。うらとく。紙もどく。人をそのふ
ゆせん。廻れ。すまふ。されや。ひすみ。とがり。だる
りと。旅金。宿。か。ま。旅。修。求。む。何。く。よ。せん。旅。經
あ。書。ま。の。ま。う。ざ。る。人。が。ゆ。や。く。な。び。て。す。ゆ。せ。す。篠
の。か。ゆ。な。れ。ぬ。は。と。あ。ら。や。く。と。篠。き。ど。し。ふ。ゆ。必
し。人。ふ。さ。じ。れ。お。も。ち。ふ。べ。と。く。ま。ま。下。は。事。と
く。ゆ。あ。う。み。う。と。是。根。め。た。す。篠。く。ふ。あ。そ。と。篠。ぐ。と
づ。く。む。と。ふ。て。あ。る。す。

禮。曉。想。勘。宣。卷。二。中。後。

